

SEI*WORLD

06 2014
Vol.441



SEI*WORLD

06 2014
Vol.441

住友電工グループの目指すべき姿「Glorious Excellent Company」

Glorious には400年余の歴史をもつ「住友事業精神」や「住友電工グループ経営理念」の具現化を、
Excellent には持続的成長のための事業目標、すなわち住友電工グループの具体的・定量的な
あるべき姿を示しています。

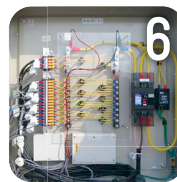
Contents



2

トップメッセージ

急がば回れ



6

Latest Information

電力線通信 (PLC) による
リアルタイムメガソーラー
監視システムの実用化に成功



3

特集

海底ケーブルプロジェクト



9

今月のグループ会社紹介

中華人民共和国 SMS社
住友電工管理(上海)有限公司



5

製品技術

PPLP®-MI
直流海底送電ケーブル



TOP MESSAGE

急がば回れ

住友電気工業株式会社 社長 松本 正義



先月、当社も2013年度決算を発表致しました。おかげさまで、売上高が過去最高値となるなど、前年度比で増収増益という結果となりました。この場を借りまして、皆様のご指導ご支援に厚く御礼申し上げます。

アベノミクスの第一の矢、第二の矢が奏功し、息を吹き返した感もある日本経済ですが、企業の実力が問われるのは今年度です。円安によるフォロワーの風はもう期待できませんし、消費増税がどの程度景気に影響してくるのかもまだ見えていません。新興国景気の減速懸念、ウクライナや東アジアなど世界の不安定な政情などが、安易に先行きを見通すことを拒んでいます。

これまでの「2本の矢」が対症療法的なものであったのに対し、間もなく出される第三の矢「成長戦略」の改訂版は、企業や社会の体質改善を

促す、時間軸の長い取り組みになるでしょう。1年前に発表された「日本再興戦略」でも、基本的な考え方は「民間の力を引き出す」「全員参加による総力戦」「新たなフロンティアの創造」とされており、企業や社会の側の努力が前提でありましょう。

企業が持続的に成長しようとするならば、移ろいやすい市場のセンチメントを追いかけて浮利に趨る愚は避けなければなりません。私どものような製造業であれば、人材の質の向上とSEQCDD*に愚直に取り組む続けることが、やはり必要条件。その上で、成長戦略に盛られた対策を、吟味して自社の活動に取り込み、社会に貢献しうる製品・サービスの創出、事業の高度化、国際競争力の強化につなげていけるかどうか、盛衰の分かれ目になるでしょう。時を読む努力を怠ってはなりません、地に足の着いた「急がば回れ」の精神も忘れないようにしたいと思います。

*SEQCDD/S：安全、E：環境、Q：品質、C：コスト、D：物流・納期、D：研究開発

海底ケーブル SUBMARINE CABLE プロジェクト特集

海底ケーブルの製造から布設まで一括で請け負うことができる当社グループは、日本はもちろん世界の送電インフラ整備に貢献しています。今回は、当社グループが長年培ってきた高い技術力が評価され参画してきた、国内外の大規模プロジェクトの一部を紹介します。

PROJECT 01

北海道と本州を結ぶ直流±250kV XLPE海底ケーブルプロジェクト

当社子会社の(株)ジェイ・パワーシステムズ(以下、JPS)は、2009年に電源開発(株)より北海道と本州を結ぶ約43kmの海底ケーブル工事を受注しました。本プロジェクトには、JPSと電源開発(株)が共同開発した直流XLPEケーブルが採用されております。従来の交流XLPEケーブルを直流で用いると、空間電荷の蓄積現象で極性反転時(運用の状況に応じて電圧の+と-が入れ替わる)の絶縁性能が低下する問題がありました。JPSでは、世界トップの性能と汎用性を持つ絶縁材料の開発に成功し本プロジェクトに適用しました。今回納入したXLPEケーブルの電圧は250kVと、この種のケーブルとしては世界最高であり、極性反転が可能なおも直流XLPEケーブルとしては世界初となります。本プロジェクトはケーブル布設と竣工試験を終了し、2012年12月より運用を開始しています。世界最高電圧の直流XLPE海底ケーブルの実用化により世界中の注目を集めたとともに、今後の国内外の送電プロジェクトへの応用が期待できます。



ケーブルの布設風景(函館側陸揚部)

PROJECT 02

台湾本島・ポンフー(澎湖)島間の交流161kV XLPE海底ケーブル布設プロジェクト

JPSは、2011年に住友商事(株)と共同で、台湾の電力会社である台湾電力公司より台湾本島と台湾南西部沿岸から西に約60km離れた澎湖(ポンフー)島を結ぶ海底電力ケーブル6本の製造と布設プロジェクトを受注しました。

ポンフー島は、漁業と観光を主産業としサンゴ礁など豊かな自然を有する美しい島です。自然を保護し「低炭素島」と呼ばれる低炭素社会を構築するため、台湾は同島の再開発を進めており、その一環で、同島の電力供給源であるディーゼル発電所を廃止し風力発電所を建設するなど、再生可能エネルギーへの移行促進を図るものです。

その中で本プロジェクトは、本島からの電力調達から再生可能エネルギーへの移行期における電源安定化という重要な役割を担っており、ポンフー島の低炭素島構想を実現する上で必須のプロジェクトとして位置付けられていました。

本プロジェクトの総布設距離は350km以上、布設深度は最も深い所で約150mあり、この種のプロジェクトとしては世界最大級のものであります。現在、プロジェクト完工に向けて、ケーブル製造を進めています。



PROJECT 03

モンテネグロとイタリアを結ぶ直流500kV MI海底ケーブルプロジェクト

当社は、2014年1月にモンテネグロとイタリアを結ぶ海底電力ケーブルプロジェクトにおいて、イタリア電線メーカーのプリズミアン社より、MI海底ケーブル^{※1}の製造を受注しました。本プロジェクトは、イタリアのテルナ社の子会社であるテルナ・レテ・イタリア社が計画中的のもので、モンテネグロとイタリアの間に、送電容量500MWの直流500kV電力ケーブルを2条(双極運転で1,000MW送電が可能)、最大深度1,200m、巨長約415kmにわたって布設するものです。

本プロジェクトは、ヨーロッパ全土を結び、再生可能エネルギーの大規模導入、電力需給の均衡、効率的な送電を行い、ヨーロッパにおける電力市場を活性化させる次世代送電網(スーパーグリッド)の構築をより促進します。

当社は、本プロジェクトを計画通りに完工させるために必要となる直流500kV MI海底ケーブル115kmの製造を担っており、2014年に当社・大阪製作所で製造を開始し2016年に納入予定です。本プロジェクト受注により当社は、500kV長距離大容量の国際連系線市場に参入を果たしました。

※1:本誌5ページにてMI海底ケーブルをさらに高性能大容量化した、当社独自開発のPPLP®-MI直流海底送電ケーブルを紹介しています。

PROJECT 04

サンフランシスコ湾 交流230kV XLPE海底ケーブルプロジェクト

当社・米国法人Sumitomo Electric U.S.A., Inc.は、2014年2月に米国サンフランシスコを拠点とする電力会社であるPacific Gas & Electric Companyよりサンフランシスコ湾内の230kV XLPE海底ケーブルの資材供給および布設工事プロジェクトを受注しました。

本プロジェクトは、サンフランシスコ湾内の全長4.5km(総布設距離13.5km)の距離を結ぶものです。

本プロジェクトには、JPSが製造する海底電力ケーブルが採用され、日本より輸出されます。2015年1月より布設工事を開始、7月に完工する予定です。これにより、サンフランシスコ市内の電力幹線網が拡充され、より安定した電力の供給が行われるようになります。



ケーブル布設船への積み込み風景



海底ケーブル布設のイメージ写真

今後も住友電工グループは、海底ケーブル布設プロジェクトへの積極的な取り組みを継続させていきます。

今回紹介するプロジェクトには、以下の2種類のケーブルが活用されています。

XLPEケーブルとは…

日本では“CVケーブル”とも呼ばれています。XLPEはCross-linked Polyethyleneの略であり、ポリエチレンを架橋し分子構造を網目構造とすることで高温での軟化を大幅に改善したものです。XLPEケーブルはこれを絶縁体に使用したものであり、他の絶縁材料より高温で使用できることから导体サイズが低減可能になります。

MIケーブルとは…

日本では“ソリッドケーブル”とも呼ばれています。MIはMass Impregnatedの略であり、絶縁紙に高粘度の絶縁油をマス含浸することを意味します。MIケーブルは、これを絶縁体に使用したものであり直流特性に優れるとともに、OF(Oil Filled)ケーブルに対し給油設備が不要となり、長距離送電が可能になります。

もっと知りたい
あの製品技術

今月の注目製品

PPLP[®]-MI 直流海底送電ケーブル

今回は、本誌特集ページにて紹介したMI海底ケーブルをさらに高性能大容量化した、当社が開発・実用化を進めている新しいPPLP[®]-MI直流海底送電ケーブルを紹介します。

風力や太陽光などの新エネルギーを都市に届けるため、さらには不安定な新エネルギーを国家間など広域で連系し安定化するため、直流海底ケーブルによる長距離送電が注目を集めています。



これまではどのような海底ケーブルが用いられていたのですか？

最長50km程度の比較的短距離の送電需要が多い日本国内の海底送電には、OF^{*1}海底ケーブルが使われてきました。OF海底ケーブルとは、絶縁紙に低粘度の絶縁油を含浸させ、高低差や熱収縮で絶縁油が脱油して電気性能が低下しないよう絶縁油を加圧して運用するケーブルです。その絶縁紙には従来のクラフト絶縁紙から、当社が1970年代に開発・実用化した、クラフト紙とポリプロピレンをラミネートしたPPLP[®]が適用されるようになり、高性能化が図られてきました。

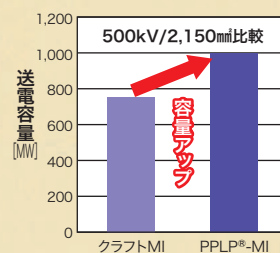
一方、欧州の国家間長距離連系では、「クラフトMI直流海底送電ケーブル」が広く用いられています。OF海底ケーブルは絶縁油の加圧圧力が届く長さが50km程度という制約がありましたが、クラフトMI直流海底送電ケーブルは距離制限がありません。これは、加圧しなくても脱油しない高粘度絶縁油をクラフト絶縁紙に含浸して絶縁体を形成しているためです。



PPLP[®]-MI直流海底送電ケーブルの優れている点は？

従来のケーブルよりもさらなる高電圧容量化に向けて、クラフトMI直流海底送電ケーブルのクラフト絶縁紙にかわり、当社はPPLP[®]を適用した「PPLP[®]-MI直流海底送電ケーブル」を開発しました。

PPLP[®]を適用したことで、電気絶縁性能が向上するとともに、ポリプロピレン層がバリアとなり、絶縁油の脱油を抑制して高温でも運用できるようになりました。そのため、PPLP[®]-MI直流海底送電ケーブルは、送電容量が従来のクラフトMI直流海底送電ケーブルに対し、約30%増加しました。これにより国際連系線は、現状の500kVからさらなる高電圧大容量化を図ることができます。



※1: OF: Oil-Filled, 絶縁油

技術者に
聞きました



電力事業部
開発技術グループ
杉 彬 先生

PPLP[®]-MI直流海底送電ケーブル開発で 難しかったことは何ですか？

当社で実績のあったPPLP[®]-OF海底ケーブルと構造はよく似ていますが、PPLP[®]-MI直流海底送電ケーブルは絶縁油が非加圧のため絶縁破壊のメカニズムから検証して、製造条件や絶縁材料を選定する必要がありました。また試作ケーブルの製造に約3カ月+試験に約3カ月かかることから一つの試作条件の確認に約半年が必要であり、製造条件と材料の最適化には長期間必要でした。

PPLP[®]-MI直流海底送電ケーブルの今後の展開は？

日本やアジア圏では短距離海底線のニーズしかなかったため、当社には長距離用のMI海底ケーブルの製品納入実績がなく、製品実績を重視する電力会社へのPPLP[®]-MI採用に向け、まず、クラフトMI直流海底送電ケーブルの実績を積み必要がありました。このため今年イタリアとモンテネグロを結ぶ海底電力ケーブルプロジェクトの500kVクラフトMI直流海底送電ケーブルの試作と評価を進め、ケーブルの製造を受注。これによりPPLP[®]-MI直流海底送電ケーブル実用化への道を拓くことができました。

新製品情報

パワーシステム研究開発センター



電力線通信 (PLC) によるリアルタイムメガソーラー監視システムの実用化に成功

ソーラーパネルの初期の設置不良、長期劣化や故障は、発電電力や売電量の減少を引き起こしますが、数万枚～数十万枚のパネルから構成される現状のメガソーラーでは、どのパネルが劣化しているかを総発電量の低下から検知することは困難です。このため、パネルの発電量を正確にリアルタイムに監視ができ、かつ手軽に取り付けられる、安価な監視システムが求められています。

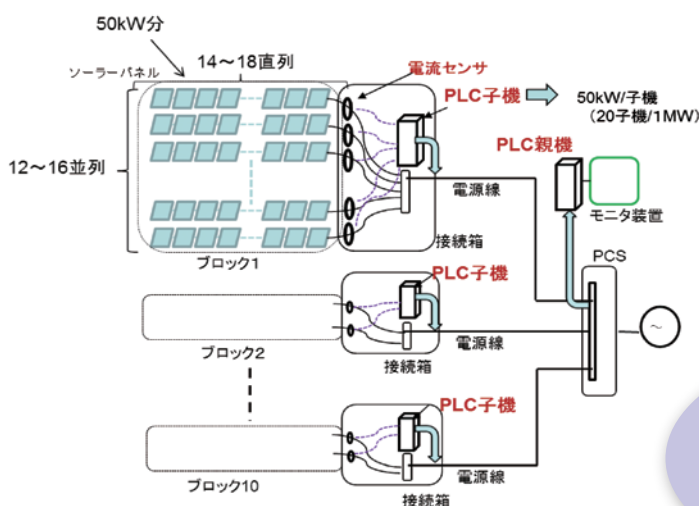
こうした状況に対応して、当社はメガソーラーで使われる600V～1kV以上の直流高電圧電力ケーブルを、そのまま通信媒体として活用

するPLC技術を用いた、メガソーラー監視システムの実用化に成功しました。本システムの実用化にあたっては、(株)コアテックにご協力いただきました。

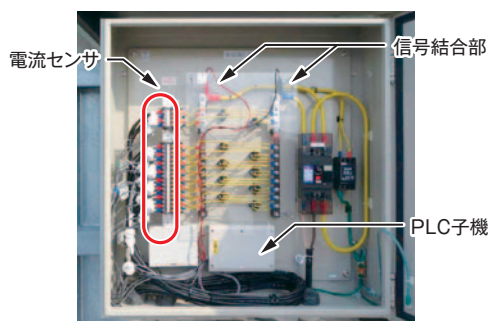
PLC技術は、高い直流電圧や大きな電力ノイズ環境下では実用化されていませんでしたが、当社では、メガソーラー特有の大容量パワーコンディショナーが発生する大きなノイズ環境でも、問題なく正確に情報伝達できる独自方式のPLC技術を開発し、本システムに採用しました。

【監視システムの構成例】

(500kW分：子機10台分)



【既設接続箱内へのPLC端末装置の設置状況】



? PLCとは

電力線通信 (Power Line Communication) のこと。既存の電力線を通信回線として利用する技術で、新たに通信線を布設することなく、データ伝送がおこなえる技術です。



特長

▶1 通信のための新規配線不要

本システムでは、接続箱内にPLCを活用した子機を設置し、ストリング※1ごとに計測した電流、ソーラーの電圧情報を既存の電源線でモニタ装置に伝送するため、通信のための新規配線が不要です。また、子機の動作に必要な電力も、ソーラーの電源線から取れるため、AC電源線も不要です。

※1 太陽光発電パネルを複数枚並べて直列接続したもの

▶2 新設だけでなく、既設のメガソーラーにも適用可能

貫通型だけでなく、クランプ型電流センサにも対応しているため、接続箱の結線など、既設のメガソーラー設備を変更することなく、容易に後付け的にセンサや子機、親機を設置できます。

▶3 ノイズや雷サージ※2に強い

長年培ってきたPLCの経験に基づき、電源ノイズに対して高い通信性能を有するとともに、雷サージなどから機器を守る対策も十分に施しています。

※2 雷によって発生する過電圧や過電流

▶4 他方式に比べて低コスト化が可能

子機は、外径が160mm×130mm×50mm、重量は500gと接続箱内に設置できる小型化を実現し、外置き用の別の収納箱も不要です。また、親機は、取り付け場所や方法に依存しますが、さらに小型化が可能です。既設および新設を問わず、装置を簡単に設置することができるため、設置費用の低減も可能になります。

LATEST information

新製品情報

パワーシステム研究開発センター、インフラ事業推進部

集光型太陽光発電装置(CPV)を製品化 ～次世代太陽光発電システムとして、宮崎大学に設置、運転開始～

当社は、次世代の発電システムとして期待される集光型太陽光発電装置(以下、CPV)を製品化し、このたび国立大学法人 宮崎大学の木花キャンパス内に設置、発電を開始しました。

CPVは、高日射環境において結晶シリコン太陽電池など従来型の太陽光発電システムに比べ、優れた発電能力を発揮します。当社は、2010年より「薄型」でかつ「軽量」を特長とするモジュールの開発に着手し、2012年から社内でシステム実証運転をしてきました。

今回設置したCPVは、64モジュール搭載システム2基となり、2基を合計したモジュール定格出力は15kW以上(測定条件CSTC※)となります。また、当社のCPVモジュールは、発電出力を落とすことなく「絵」や「文字」をモジュールに映し出すことが可能で、1基には全面に大学のロゴマークを表示しています。

今後も当社CPVの優れた特長を活かしながら、よりコストパフォーマンスの高い製品開発を推し進め、高日射環境の国々や地域を中心に、新しい発電システムとして拡販していきます。



当社横浜製作所に設置したCPV(2012年7月～)



宮崎大学に設置したCPV

※ CSTC:IEC国際規格「Concentrator Standard Test Conditions」の略称

当社CPVの特長

1 高効率、高出力でかつ高温環境に優れた発電システム

CPVは、発電効率が極めて高い化合物半導体の発電素子を用い、太陽を正確に追尾しながらレンズで直達日射光を集め発電する仕組みになっています。発電効率は標準的な結晶シリコン太陽電池に比べて約2倍で、また発電素子の温度依存性がほとんどないことから、CPVは直達日射量が多く気温が高い地域で有効な発電システムとして期待されています。

2 薄型で軽量なモジュール

集光型太陽光発電装置業界でトップレベルとなる、厚み約100mm、重量10kg未満の薄型軽量モジュールを開発しました。薄型で軽量なモジュールは、輸送時のモジュール積載効率の向上や現地設置作業効率の向上、また、太陽を追尾する架台に多く搭載できるなどのメリットがあり、発電システムのトータルコスト低減に貢献できると考えています。

3 設置エリアの有効活用

太陽を追尾する架台の上にCPVモジュールを設置する構造のため、モジュール下のスペースを駐車場、花壇、農地などとして活用することが可能です。

お知らせ

電線・機材・エネルギー事業本部

(株)ジェイ・パワーシステムズが新しくスタート!

当社は、日立金属(株)が50%を所有していた(株)ジェイ・パワーシステムズ(以下、JPS)の株式の全部を取得し、4月1日付で当社の100%子会社としました。今後、JPSは、環境エネルギー部門におけるグローバルな事業拡大の中核となるとともに、当社グループとしては、JPSの送電ケーブル事業と当社の超電導や大型蓄電池などの事業を合わせることで、総合力でエネルギー社会を支えています。

展示会

水処理事業開発部

水処理最先端技術の学会の併催展示会に出展

6月16日から18日の間、札幌の北海道大学 学術交流会館でIWA(国際水協会)スペシャリストグループ会議が開催され、展示会が併催されます。この学会、展示会は、ミリからナノの領域における粒子のろ過に関する先端技術にスポットライトをあてるものです。

当社は、ポアフロン®精密ろ過膜モジュール、およびその関連技術を紹介します。

公式サイト <http://www.knt.co.jp/ec/2014/IWA-PS/index.html>

会 期 6月16日(月)～18日(水)

会 場 北海道大学 学術交流会館

出展製品 ポアフロン®精密ろ過膜モジュール、およびその関連技術

展示会

ファインポリマー営業部

「第18回機械要素技術展」に出展

6月25日から27日の3日間、東京ビッグサイトで「第18回機械要素技術展」が開催されます。本展示会は、軸受、ベアリング、ねじ、ばねなどの機械要素や、金属、樹脂に関する加工技術を一堂に集めた専門技術展です。

当社は、摺動性に優れた架橋フッ素樹脂FEX®、テラリンク®を出展します。皆様の当社展示ブースへのご来場を心よりお待ちしております。

公式サイト <http://www.mtech-tokyo.jp/>

会 期 6月25日(水)～27日(金)

会 場 東京ビッグサイト **ブース番号** 東57-18

出展製品 架橋フッ素樹脂FEX®、テラリンク®

お知らせ

新規事業マーケティング部

エコマリン™電解型バラスト水処理装置のIMO G9基本承認取得

当社と日立造船(株)は、電解型バラスト水処理装置「ECOMARINE®-EC」を共同開発してきましたが、このほど、IMO (International Maritime Organization、国際海事機関)が「活性物質を利用するバラスト水管理システム承認のための手順(G9)」で定める基本承認(BA)を取得しました。

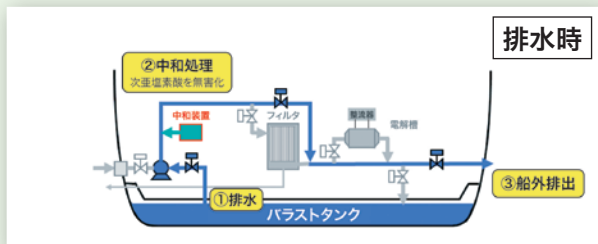
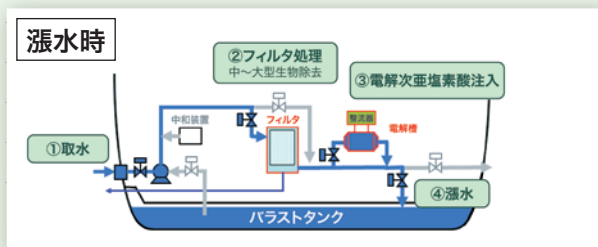
両社は、2012年12月に「エコマリン技術研究組合」を設立し、当社のフィルター技術と日立造船(株)が有する電解技術ならびに船用事業における知見を最大限に融合させ、環境への負荷が少ない低消費電力で高性能な電解型バラスト水処理装置「ECOMARINE®-EC」(定格処理量500m³/h)を開発してきました。

本装置は、本年5月より実船での船上試験を行っており、2015年夏にIMOのG9最終承認(FA)を取得し、2015年秋には国土交通省の型式承認を取得することを目指しています。

本装置の特長

- ①高性能な電極により、低塩分濃度(1PSU)でも低消費電力で高い殺滅性能を発揮します。
- ②高い過性能を有する当社のRCフィルター装置により、海水中のLサイズ(>50μm)生物は完全に除去され、Sサイズ(≤50μm、>10μm)生物もある程度取り除くことができます。
- ③RCフィルター装置で濾し取れなかった生物はサイズが小さいので低濃度の次亜塩素酸でも殺滅できるため、中和剤の投入量を抑えることができます。

また、当エコマリン技術研究組合は、2015年度を目標に事業形態を合併会社に移行させ、本装置および当社が開発中の紫外線型バラスト水処理装置「ECOMARINE®-UV」の販売を開始する予定です。



お知らせ

住友電工ネットワークス(株)

NTTぷららの4K VODトライアルに「ST4100シリーズ」を提供

住友電工ネットワークス(株)は、(株)NTTぷららが2014年4月8日より開始した映像配信サービス「ひかりTV」の4K VOD (Video On Demand) トライアル向けのIPチューナー (STB) として「StreamCruiser® SmartTV ST4100シリーズ」を提供しました。

「ST4100シリーズ」は、秒間60フレームの超高精細4K※1映像と最新の動画圧縮技術であるHEVC/H.265※2ならびにHDMI2.0※3に対応したIPセットトップボックスで、最新のHEVC/H.265対応SoC (System on Chip) を搭載し、これに当社のIPストリーミング技術を搭載したIP-STBです。ネットワーク上に配信される秒間60フレームの4K映像の受信とリアルタイム表示出力を可能とし、ブロードバンドネットワークを介して、これまでにない高画質で臨場感溢れる映像を利用者へ提供します。

今後も当社はブロードバンド映像ソリューション関連製品における豊富な納入実績で培った技術を活かし、次世代の映像配信サービスの発展に取り組んでいきます。

- ※1: 4K (UltraHD 3840x2160pixels)
フルハイビジョン (2K) の約4倍の解像度。解像度が増加した分、スポーツ中継などには従来の2倍の秒間60フレームが欠かせない。
- ※2: HEVC (High Efficiency Video coding)
従来 (H.264) の約2倍の動画圧縮性能を有する。
- ※3: HDMI2.0: HDMI端子の最新規格。4K、秒間60フレーム映像の出力に必要。
・HDMI は、HDMI Licensing, LLC の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

お知らせ

インフラ事業推進部

スマートエネルギーシステムのWebサイトを開設

「住友電工Webサイト」内に、スマートエネルギーシステムのWebサイトを新たに開設しました。

スマートエネルギーシステムとは、新しい電力・エネルギー社会の実現に向けて、住友電工グループが提案できるソリューションです。電源の分散・多様化、蓄電、双方向通信制御といった新たな電力・エネルギーシステムを最適化していく上では、多くの要素をきめ細やかに、しかも巧みに組み合わせることが求められています。こうした要請にお応えすべく、住友電工グループは、広範な事業領域を有する企業として、その特性を最大限に発揮したソリューションを提案していきます。

今後も、当社グループへのご理解をより深めていただけるよう、「住友電工Webサイト」の充実に取り組めます。

公式サイト <http://www.sei.co.jp/smart/>



今月の グループ 会社紹介

グローバルグループ vol.26

SMS

Sumitomo Electric Management (Shanghai) Co.,Ltd

中国のグループ各社へのコーポレートサービスなどの業務支援で、
各社の成長・発展に寄与するSMSからのレポートです。

私が紹介します



人事総務部
島谷 祐介



会社概要



名 称：住友電工管理(上海)有限公司
設立年月：2005年11月
事業内容：グループ会社向け法務、財務、人事、情報システム、物流、購買、生産技術、安全管理、解析技術などのサービス提供
代 表 者：島田 健一

住友電工
との
つながりは

住友電工管理(上海)有限公司(略称SMS)は、1996年設立の上海駐在員事務所を前身とし、2005年に「住友電工諮詢(上海)有限公司」として設立され、2010年に経営範囲を拡大し、管理性会社※として現在の社名となりました。現在は上海と深圳の2拠点を有し、中国の住友電工グループ各社へのコーポレートサービスなどの提供を通じて業務支援をおこなっています。

※管理性会社：多国籍企業が管理、研究開発、資金管理、販売、物流、支援サービスなどの運営機能を統括するために設立した会社

こんな
仕事を
しています

経済発展のなか、直面する難しい環境変化に対応し 「人」の面からフォロー

SMSは、華東地方の上海市に本社を、華南地方の広東省深圳市に支社(分公司)を有し、中国の住友電工グループ各社に対して、法務、財務、人事、情報システム、物流、購買、生産技術、安全管理、解析技術などのサービス提供を通じた業務支援をおこなっています。

私は2012年10月に中国に赴任し、常州での勤務を経て、2013年2月に上海に赴任しました。おもにグループ各社向け諮詢業務(制度改正や法改正関連対応の支援などの人事業務支援

および人事労務問題の解決支援)やSEI人事総務部と連携した人材マネジメント施策の推進を担当しています。

中国の住友電工グループ各社は、さまざまな課題に直面しており、難しい環境下での舵取りを迫られています。このような状況のなか、各社の持続的な成長、発展につなげるべく、人材マネジメント諸施策の推進、各社における「労務対応力強化」をめざした支援などを通じ、「人」の面からの貢献をしていきたいと思えます。



2014年新年会(上海)にて



深圳分公司メンバー

現地スタッフの紹介



渡東華 (フドンファ)

みなさんこんにちは。渡東華と申します。2005年10月に住電装諮詢(上海)に入社し、2009年4月からは住友電工諮詢(上海)情報系統(情報システム)部に籍を移し、おもに中国の住友電工グループ向け、IT(インフラ/OA、システム開発/保守、情報セキュリティ)支援を担当しています。私は仕事で、コミュニケーションが一番重要だと認識しています。中国でのグループ事業の発展とともに、私自身も成長していくことを期待して、日々励んでいます。



葉鳳琴 (イエフンチン)

2011年に入社し、各社のVA活動・原料の現調化支援を中心に担当しています。小さな“葉”の私ですが、多くの方のおかげで、少しずつ“0”から“1”へと成長しています。昨年は4カ月間、日本研修の機会をいただき、上海では学べない多くのことを学びました。中国には「山外有山、人外有人*」ということわざがありますが、今後も住友電工の一員として、つねに変化に挑み、成長を続け、成果を出すことで、“実”を結ばせていきます。変化がある所に、チャンスあり！

※一番と思っても、それ以上がある、上には上がある。

現地レビュー

中国経済と文化の心臓部、世界屈指の経済都市 上海

上海市とは

上海市は中国東部に位置する直轄市の一つで、世界でも有数の経済都市です。人口は2,400万人超といわれており、19世紀以降の外国資本の流入以降、経済発展にともない滞在外国人も増加、うち日本人は出張者などもふくめると10万人が滞在しているとも言われています。気候は比較的穏やかですが、夏は猛暑日、冬は冷え込むこともあり、短い春秋の過ごしやすい時期が恋しくなることもしばしばです。



上海の中心街、南京東路の歩行街

歴史と発展が融合した街



外灘の夜景

近年の目覚ましい経済発展と2010年の上海万博を経て、浦東地区の超高層ビル群などを中心として、上海市の姿は急激にそして日々様変わりをしています。そんな時代を先取りした雰囲気身をまといつつ、一方では少し歩けば昔ながらの伝統的な街並みに巡り合うことができたり、租界時代の西欧風の建造物を数多く残している様相は、まさに歴史と発展が融合した非常に魅力あふれる街と言えます。

中国といえば……

ズバリ連想する動物としてパンダ(熊貓)を挙げる人も多いと思いますが、わざわざ遠くに行かずともここ上海でもパンダを見ることができます。上海市には「上海野生動物園」があり、パンダやホワイトタイガーなどのめずらしい動物をはじめ約200種を観賞することができるほか、動物による中国名物の雑技には胸がときめき、笑顔が咲くことでしょう。ただ、甲子園球場の約30倍という非常に広大な敷地を誇る園内を巡るには、相当の体力が必要ですね。



愛くるしいパンダ



西欧風の雰囲気を残す外灘



人民広場付近の高層ビル



昔ながらの豫園(よえん)の通り



上海野生動物園の見事な動物雑技

Ingenious Dynamics

住友電工グループは、卓越した知見と独創性を持ち、
そのダイナミクスによって最大効果を創出し、社会の期待に応えていきます。

Ingenious は、それぞれが備え持つ卓越した能力と独創性、そして顧客志向の機動力を、
Dynamics は、原動力（住友の精神）、力学（多角化事業・技術によるグループ全体の総合力）、
変革のエネルギー（進取、気鋭）を表しています。また同時に、頭文字の「ID」は、
グローバルに「住友電工のアイデンティティ」（独自の個性）を積極的に発揮していく姿勢と、
「Infrastructure Development」（社会インフラの発展）に貢献し続ける意志を示しています。

住友電気工業株式会社

本 社(大阪) 〒541-0041 大阪市中央区北浜4-5-33(住友ビル) Tel.06-6220-4119 Fax.06-6222-6485
本 社(東京) 〒107-8468 東京都港区元赤坂1-3-13(赤坂センタービル) Tel.03-6406-2600 Fax.03-6406-2700
中 部 支 社 〒461-0005 名古屋市中区東栄1-1-6(住友商事名古屋ビル) Tel.052-963-2700 Fax.052-963-2818
九 州 支 店 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-2-8(住友生命博多ビル) Tel.092-441-1791 Fax.092-473-7084
中 国 支 店 〒730-0031 広島市中区紙屋町1-3-2(銀泉広島ビル) Tel.082-248-1791 Fax.082-249-3483
東 北 支 店 〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-27(プライムスクエア広瀬通) Tel.022-262-7540 Fax.022-262-7538
北 海 道 支 店 〒060-0042 札幌市中央区大通西8-2(住友商事フカミヤ大通ビル) Tel.011-241-1375 Fax.011-281-4113
沖 縄 支 店 〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地3-21-1(國場ビル3F) Tel.098-866-3213 Fax.098-866-0277
豊田事業所 〒471-0855 愛知県豊田市柿本町2-4-1 Tel.0565-26-4105 Fax.0565-26-4158

<http://www.sei.co.jp/>(バックナンバーも掲載しています)

住友電工グループニュースレター 第441号 2014年6月発行 編集発行人/野田太郎

